

(様式 3)

政務活動 (参加・**実施**) 報告書

令和 5 年 9 月 25 日

会 派 公明党議員団

参 加 者 神山 哲太郎

政務活動先 (目的地)	こども屋内遊技場 キッズスクエア「ちっくる」 秩父別町 1264 番地 1				
開催団体等					
政務活動期間	令和 5 年 9 月 21 日 (木)			1 日間	
政務活動項目 (名称等)	こども屋内遊技場 キッズスクエア「ちっくる」について				
政務活動参加者	神山哲太郎	大西厚子	大野正和		
	池田謙次	藤田広美			計 5 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	<p>《目的》 秩父別町は「子ども子育て応援宣言」をしてまち全体で子育てをするためにハード、ソフトの両側面から取り組みを展開しているとの事でした。 本市には子どもの居場所作りや子育て支援を手厚くしてほしいとのご要望が多々あるということをご認識しております。 今回は全天候型の遊戯施設を視察させて頂き、先進的な事例を本市にどう反映できるのかを学ぶ事を目的とします。</p> <p>《こども屋内遊技場 キッズスクエア「ちっくる」について》 ○ちっくるは平成 29 年 4 月 1 日オープン、5 億 4,900 万円の建設費で建てられました。 ○最初の建設のきっかけは、冬季間の子どもたちの遊び場の確保の声から始まったとの事でした。 ○利用料金は大人子ども問わず無料、屋外施設なども最初から無料で設定されており、理由は当初目的が町民の為との事しか考えてなかったため、そのまま現在にいたるとのことでした。 ○建設費財源は町単独費。維持管理費・指定管理費は年間 1,480 万円で、財源はふるさと納税を使わせて頂いているとの事でした。(直近のふるさと納税額は 8 億円超、お米など農産品が人気との事でした) ○室内大型遊具は以下 8 点要素を持ち合わせているとの事です。</p>				

- ① めまいた遊び行動（跳ぶ・はねる・ゆれる等）
- ② 能動的遊び行動（登る・走る・もぐる・這う等）
- ③ 体性感覚遊び行動（さわる・押す・つかむ等）
- ④ 視聴覚的遊び行動（見る・聞く・声を出す等）
- ⑤ ゲーム的遊び行動（競争ゲーム等）
- ⑥ 知的能力（安全・危険の察知能力の発達・好奇心、創造力、思考力等の発達）
- ⑦ 情緒的能力（思いやり、譲り合い、集中力等の育成）
- ⑧ 社会的能力（協調性や問題解決能力等の育成）

以上の要素により子どもたちの成長をしっかりとサポートされております。

○屋外遊技場キュービックコネクションと隣接されているキャンプ場、ファミリースポーツセンターにつきましても視察させていただきました。（利用料はキャンプ場テント1張500円、以外は無料）

○入場者数はコロナ前10万人/年を超えコロナ禍の昨年度でも5万人/年を超える方が利用されました。人口約2,200人の町でこのような町外からの誘客はものすごい効果だと思いました。

《所感》

最初は地域からの「冬季間の遊び場が欲しい」との声からだったのかもしれませんが、施設の整備を進めていざ運用となった後にキャンプブームに乗って「子どもを暇させない遊べるキャンプ場」と言うのが口コミやネットで広まり町外からの誘客につながったとの話しを聞きました。当然、全天候型なので間違いなく遊べる施設として全道各地から来られるそうです。説明頂いた町職員の方は、偶然と言われておりましたが、本来の意味である子どもたちを町全体で育てるとの事をブレずに施策を進めているのが印象的でした。

あえて入場料を取らないのも後に見えてきた「交流人口を増やしたい」との新たな目標で、効果として休日に町の飲食店、商店、などが賑わいを見せているとの事でした。

子どもだけではなく、親や祖父母と一緒に来て体を動かして街に笑顔があふれているとの事でした。

状況環境は違いますが、本市の施策に提案反映するために良き学びとさせていただきます。

資料名（会派保管）

「秩父別町 町勢要覧 2020」

「こども屋内遊技場 キッズスクエアちっくる概要書」

「屋外遊技場 キュービックコネクション施設概要書」

会派内回覧



政務活動（参加・**実施**）報告書

令和 5 年 9 月 29 日

会 派 公明党議員団参 加 者 神山 哲太郎

政務活動先 (目的地)	はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ 函館市若松町 20 番 1 号 キラリス函館				
開催団体等					
政務活動期間	令和 5 年 9 月 26 日 (火)			1 日間	
政務活動項目 (名称等)	はこだてみらい館・はこだてキッズプラザについて				
政務活動参加者	神山哲太郎	大西厚子	大野正和		
	池田謙次	藤田広美			計 5 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	<p>《目的》</p> <p>本市におきましても中心市街地活性化の施策は近い将来実行に移されます。函館市におきましては、計画の中で駅前施設を再開発し商業施設・集合住宅・子育て世代活動支援施設を集約して整備させ、全体としての波及効果を見込んではこだてみらい館・はこだてキッズプラザを整備開設しました。</p> <p>子ども子育ての施策をまだまだ進めて欲しいとの市民要望がたくさんある中、以上がどの様な効果をもたらしたのか、また、本市において利点や効果がないのかどうか学ぶ事を目的とします。</p> <p>《両施設共通》</p> <p>○平成 28 年 10 月 15 日オープンで総事業費は 20 億 1,458 万円強</p> <p>○JR 函館駅の前にキラリス函館との名称で建ち、3 階にはこだてみらい館、4 階にはこだてキッズプラザ、5～16 階までは分譲マンションになっています。1 階 2 階は店舗や銀行などが入りにぎわいの創出になっているようでした。</p> <p>《はこだてみらい館について》</p> <p>○市民に対してもそうですが、観光客に対しての意識が強いように感じました。実際に平日は特に修学旅行の子どもたちの利用が多いとの事でした。特に道内の小学生が多く、東北の小学校にも営業をかけて今では利用されているとの事でした。</p>				

○土日でも半数以上は市外からの利用者だそうで、観光ついでにと利用される方が多いようです。そんな中、地元の子供たちのためにとあらゆるイベントや学び企画を行っているとの事でした。

○施設の内容も大画面ビジョンと人が連動するであったり、3Dプリンターのものづくり体験、360度に広がる市内映像を見る事ができるスタジオなど先進技術を体験できるなど良い体験ができる施設になっておりました。

○R4年度の利用者数は5万5千人余りでやはり修学旅行シーズンや観光シーズンの8月に多いようです。

《はこだてキッズプラザについて》

○こちらは対象年齢が下がり、幼児から利用できる施設となります。子育て支援や幼稚園・保育園の団体利用にも対応しているとの事で、市内にこのような施設があれば学びにも寄与できると思われました。

○市内の子育て支援がメインかと思いきや、こちらも平日休日問わず観光で立ち寄りの方が多いとの事でした。話を聞くと小さなお子さんは家族旅行などで観光していても子どもはじっとしている事が出来ずに体を動かしたいもので、観光地のど真ん中の遊び場は最適地だとの事でした。なるほどの納得で、利用者はR4年度8万5千人余り、ピーク時は11万5千人余りだそうです。

○施設の内容は知育玩具や安心安全の遊具がそろえられており、親からしても安心して利用できる内容でした。

○こちらは室内の遊び場なので1～3月の利用が多いとの事でした。地方から来られる方がこれだけ多いとやはり需要はあると思われました。

○託児室や子育て相談室には多くの市民の方が気軽に利用されている良い場所になっているそうです。

《所感》

中心市街地活性化、まちづくりに子育て支援を連動させることの有効性を大いに学ばせて頂きました。

両施設とも指定管理者が、本来の目的をしっかりと保ちながら子どもたちのためにと様々に企画運営をされていることが印象的でした。

本市にどの様にして反映できるのかをしっかりと取り組みたいと思います。

資料名（会派保管）

「函館市の概況」

「はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ経緯概要」

「はこだてガイドマップ」

会派内回覧



政務活動 (参加・**実施**) 報告書

令和 5 年 11 月 16 日

会 派 公明党議員団参 加 者 神山 哲太郎

政務活動先 (目的地)	京都市立洛風中学校 京都府京都市中京区曇華院前町 706				
開催団体等					
政務活動期間	令和 5 年 11 月 14 日 (火) ~ 15 日 (水)			2 日間	
政務活動項目 (名称等)	不登校特例校の取り組みについて				
政務活動参加者	神山哲太郎	大西厚子	大野正和		
	池田謙次	藤田広美			計 5 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	<p>《目的》</p> <p>全国的にも本市におきましても不登校児童生徒数は増加し、その原因としてあるいじめ認知件数も増加しております。児童生徒はもちろんのこと、保護者、家族も同様に不安や悩みを大きくされる問題となっております。</p> <p>平成 16 年から文部科学省の不登校特例校として開校した京都市立洛風中学校ですが、開校以前に市を挙げて様々な取り組みを経てきたことをお聞きしました。</p> <p>先進的な対策対応取り組みを学ぶ事を目的とします。</p> <p>《京都市教育委員会》</p> <p>○政令指定都市であります市という事を前提として教えて頂きましたが、やはり独自で対策対応を実行に移す決断が出来やすかったという事はありますが、「まちづくりは人づくりから」との文化が作り上げられた歴史が今にも引き継がれているとの事でした。</p> <p>○具体的な施策として、学校における支援体制の強化を図るためにいち早く全校にスクールカウンセラーを配置し、スクールソーシャルワーカーの適正配置や学生ボランティアと連携をして支援を強固にしたとの事でした。</p> <p>○多様な学びの機会の確保という事で、出来ることは全部やろうとこの度おじゃましました洛風中学校開校、もう一校洛友中学校も不登校特例校で夜間中学が併設された中学校開校、フリースクールとの連携で家庭訪問事業などの展開、教育支援センターを市内 5</p>				

力所運営など展開されて、相談体制も充実されております。

《京都市立洛風中学校》

○「仲間とともに納得して学び直す心を開いて遊び、語り合い、健全な心身を養い、様々な課題を克服する学びの実践を通して自らの夢を創造し、歩む社会的自立のできる生徒の育成」を20年間変わらずのテーマで来たとのことでした。

○開校までの取り組みの歴史は平成元年に「山のおじさん事業」があったそうです。これは不登校の子どもたちを対象に、自然の中で宿泊を伴うキャンプ生活を実施したそうです。

○「学校らしくない学校」にすることで生徒の精神的負担を排除したいと考えていました。具体的な一例で、クラスを学年別ではなく縦に割る工夫をされておりました。そうすることにより協調性が養われ生徒の対人のプレッシャーも和らぐ効果があるとの事でした。(同級生と比べられる気持ちになる)

○特例されるひとつとして年間総授業時数が770時間(学習指導要領では1015時間)に設定されており、例えば理科と社会を総合的に科学の時間として、独自の教科科目での学びを作られておりました。

○全市内から1時間以内で登校できる利点もあり、登校時間は9:30~9:45と遅めの設定にされており、ここも不登校生徒の早起きできない傾向をとらえてプレッシャーの排除をされている取り組みでした。

《所感》

不登校を経験した生徒と何年も向き合ってきた先生の生の声をお聞きし大変に有意義な視察をさせて頂きました。

不登校になる原因は「まじめすぎる」というイメージだそうです。「自分のせいでみんなの時間を止めてしまっているのではないか」という気持ちにどうしても立ってしまう、様々な事に妥協することが出来ないことが多いそうです。

学校に来ることが出来るようになる「きっかけ」は人によってさまざま、例えばバスケットボール日本代表がオリンピック出場決定してから登校できるようになった生徒もいたそうです。「登校刺激」は人それぞれだそうです。

お聞きしたお話しを不登校でお悩みの保護者などたくさんの方に聞いてほしいと心から思いました。

資料名(会派保管)

「京都市の不登校児童生徒への支援施策」

「京都市立洛風中学校 学校案内」

「京都市教育相談総合センター パンフレット」

会派内回覧



(様式3)

政務活動 (参加・**実施**) 報告書

令和 5 年 11 月 20 日

会 派 公明党議員団

参 加 者 神山 哲太郎

政務活動先 (目的地)	滝川市 (滝川市立図書館) 滝川市大町 1-2-15				
開催団体等					
政務活動期間	令和5年11月17日(金)			1 日間	
政務活動項目 (名称等)	滝川市立図書館の取り組みについて				
政務活動参加者	神山哲太郎	大西厚子	大野正和		
	池田謙次	藤田広美			計 5名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	<p>《目的》 滝川図書館は市役所庁舎内にあり、まちづくりの一翼を担っていると伺いました。 行政間や地域、学校や病院などとの連携を重要視しており、様々な先進的な取り組みを行っております。 本市におきましても、まちづくりの可能性が広がる取り組みや、市民生活と図書館のつながりを深くとの事を学ぶ事を目的とします。</p> <p>《滝川市立図書館》 ○本市や他市におきましても指定管理者制度を利用して民間ノウハウを活用しサービスの向上と経費削減をされておりますが、滝川市におきましては直営で運営されておりました。 ○メリットは各所連携がしやすい事だと感じました。 ○行政連携は防災対策の部署に防災関連の書籍を、健康づくりの部署や産業、観光、選挙管理委員会など各部署に関連書籍を選定したうえで書籍コーナーを作っておりました。すべて図書館主導です。 ○地域連携も活発で、地域の書店と連携して共同事業を数多く実施され、市民のためになっている様子でした。つながることができるのはすべてつながるとの気概を感じました。 ○学校連携に関しましては、授業で使える本コーナーの設置や、</p>				

読書アルバムの作成運営をするなど、学校に対して運営支援も担っていて、子どもたちが手を伸ばせば読書できる環境づくりを図書館が担うと決めているそうです。

○数あるこどもの読書活動支援事業の中で、「読書アルバム」を作成配布し、読んだ本の題名と著者、日付、一言感想を書き、冊数に応じて賞状を配布、500冊達成したら教育長から表彰される取り組みは競って読まれているそうです。

○同様に0才からの未就学児童のいる家庭向けに「絵本ダイアリー」と題して読み聞かせ日記を作成配布、1冊読み聞かせするたびに書名、お子さんの成長の記録や反応を書き入れるという取り組みもされておりました。

○企業、団体、個人が対象で、1年間雑誌を寄贈する取り組み「雑誌ささえ隊」が良い取り組みでした。雑誌を寄贈するとカバーの表面に企業・団体・個人名（希望制）、裏面にPRチラシを掲載することが出来て、会社団体のPRと社会貢献活動と図書館の経費削減にもなり市民サービスにもなる取り組みでした。

○置かれている雑誌121誌中66誌がささえ隊（視察時）で運営されており、年間50万円程経費削減になっているそうです。ささえ隊の応援隊長さんがいるようで、大きく声掛けしているそうです。

○図書館ボランティア「ブックフレンド」制度があり、34名の方が平均週4日間来て頂いているそうです。内容は、読み聞かせ（こども・高齢者）・本の修理・カバーかけ・新聞スクラップ・障がい者向けCD作りなど多岐にわたる作業をして頂いているとの事でした。

《所感》

「まちづくりの中心が図書館」との思いに立って図書館運営されているだけあってかなり活発な運営をされておりました。

まちなかの賑わい創出を図書館が考えるのが素晴らしく、「まちなかコンシェルジュ」として職員さんがお店や団体を取材して図書館発信でPRする取り組みはかなりのエネルギーが必要です。

図書館に限らず各所各立場で強くまちづくりを考え推進することの大事さをこの度学ばせて頂きました。

資料名（会派保管）	「滝川市立図書館パンフレット」 「えほんダイアリー・読書アルバム・たきりブ通帳」 「滝川市立図書館活用ガイド」 他パンフレット
-----------	--

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	--	--	--

政務活動（参加・**実施**）報告書

令和 5 年 11 月 22 日

会 派 公明党議員団参 加 者 神山 哲太郎

政務活動先 (目的地)	上士幌町（上士幌町役場） 上士幌町字上士幌東 3 線 2 3 8 番地				
開催団体等					
政務活動期間	令和 5 年 11 月 21 日（火）			1 日間	
政務活動項目 (名称等)	みらいへつなぐ持続可能なまちづくりにおけるゼロカーボンの取り組み について				
政務活動参加者	神山哲太郎	大西厚子	大野正和		
	池田謙次				計 4 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	<p>《目的》</p> <p>上士幌町は国の「脱炭素先行地域」に第 1 回目で選定され、文字通り脱炭素の取り組みを先駆的に取り組まれている町です。</p> <p>本市におきましても、先行地域に選定されましたが、どんどん前のめりになって進めなければなりません。</p> <p>先行地域ならではの取り組みに触れ、学ぶ事を目的とします。</p> <p>《取り組み全般》</p> <p>○地方創生の取り組みとして人口減少対策を若者ターゲットに事業を構築し推進したそうです。例えばお試し暮らしの家 10 軒を用意し住んでもらい、医療・福祉に力を入れ良さを実感して定住、との流れが 2015 年から 5 年間で構築されて結果人口増につながりました。財源はふるさと納税だそうです。</p> <p>○様々な地方創生の取り組みをした結果、転入者の 70%以上が若年層で、高齢化率上昇も抑え、町民所得も上がり、税収も上がるという好循環の成果を上げられました。</p> <p>○SDGs 達成を本格的な取り組みとして推進する事によってすべての未来を創るとの思いで取り組まれており、すべてが繋がっております。</p> <p>○都市企業人の呼び込みや地元事業者と地方のビジネスマッチング等を目的として、「かみしほろシェア office」を整備、テレワークの拠点として年間 10 万円程で利用することができ、視察時で 13</p>				

社が登録利用されているそうです。横のつながりができて良いそうです。

○上記施策が進み、町外の企業者などが滞在する施設が必要になってきたことにより、企業滞在型施設「にっぽうの家」を整備（町設民営）、地元事業者などとの交流を大きく発信して頂いているとの事でした。

○MaaSプロジェクトと題して次世代高度技術の社会実装をして住民生活の利便向上を図っておりました。具体的な例として自動運転バスの実証実験は6年前（2017年10月）から始めて、現在は1区間、月・木・土曜日（1日6便）の運行を継続実施中でした。現在の運行はタクシー会社に委託されているとの事です。

○町内運行バス（高齢者福祉バス、農村部2路線）をデマンド化し事前予約制にして空き時間を可視化、沿線住民の利用拡大を図りました。高齢者にタブレット端末を配布（町で100台）、使いやすさに特化した設計で高齢者自身がタブレットから予約し利用する仕組みです。運行時間や回数が7割以上減になり、利用人数は3倍以上になる結果が出ました。

○資源循環型農業と銘打ち、バイオガス発電プラントの整備を平成29年から整備し、エネルギーの地産地消を図りました。

○家畜のふん尿を発酵させてバイオガスを発生させてガスエンジンにより発電し電気ビジネスを展開して酪農畜産農家をはじめ町内に売電します。メタン発酵後のふん尿は消化液となり液肥として草地や畑地に散布されます。その牧草を家畜のえさにして飼育し、残りは乾燥させて敷料（寝わら）にリサイクルするという資源循環型農業となります。




○SDGs推進本部を役場内に立ち上げ具体的に推進、SDGsプロジェクトチーム（教諭、高校生、商工・農業・金融・福祉・観光関係者、役場職員など若者約20名で構成）を立ち上げ具体的な取り組みを検討実施されておりました。例として、上土幌町を舞台としたボードゲームを作り上げ、それを活用して普及啓発活動を行っており、更には学校では年間30時間も授業を受け持つとか、企業団体で出前講座を受け持つなど、活発な活動を展開されておりました。

《所感》

ゼロカーボンとまちづくりを学びに行かせて頂きましたが、地方創生事業、教育、福祉、経済、環境もすべてが脱炭素の取り組みにつながっていると思いましたが、改めてすべてをつなげて展開する重要性を学ぶ事が出来ました。

本市規模でできる事とできない事は当然あるとは思いますが、この度学ばせて頂きました事を反映できる場所は多くあると思われましたので、提案し続けていきます。

	資料名（会派保管）	「みらいへつなく持続可能なまちづくり」 「上士幌町ふるさと納税と寄付金の活用」 「かみしほろの未来を創る SDGs」 「みんなで考えよう SDGs」 「ふるさと創生北海道上士幌町のキセキ」
--	-----------	--

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	--	--	--

(様式3)

政務活動 (参加・**実施**) 報告書

令和 5 年 11 月 27 日

会 派 公明党議員団

参 加 者 大野 正和

政務活動先 (目的地)	石狩市役所 石狩市花川北 6 条 1 丁目 30 番地 2				
開催団体等					
政務活動期間	令和 5 年 11 月 24 日 (金)			1 日間	
政務活動項目 (名称等)	こども未来館あいぽーとの取り組みについて				
政務活動参加者	大野正和				
	池田謙次	藤田広美			計 3 名
全体参加者数					
政務活動の目的・結果等の概要・所見	<p>《目的》 本市にはこどもの居場所作りや子育て支援を手厚くしてほしいとのご要望が多く、会派全体としても承っております。 子育て支援策として大型施設を展開しております先進地におきまして経緯や運営方法、成果等を学ぶ事を目的とします。</p> <p>《石狩市役所》 ○こども未来館あいぽーとは、0歳から18歳までを対象に、子どもたちの健全育成の総合的な機能を持つ大型児童センターとしての役割で12年前から指定管理者制度を利用して運営されております。 ○乳幼児と保護者が集う「りとるきっず」や、登録制の放課後児童クラブ「花っ子クラブ」が併設されております。 ○指定管理者は地元のNPO法人で長年にわたり子育て施策の中心となって活動されてきた団体で、その団体の持つノウハウを児童館運営に活用することが利用者やまちのためであると自信をもって話され、あくまでも経費削減目的ではないとの事でした。後に記述しますが、なるほど子どもたちの視点に立った運営をされておりました。 ○こどもの居場所づくり、特に学童を過ぎてからの居場所がなくなると感じる子どもが多く、主体的に活動する場を提供することが重要施策となったそうです。</p>				

○こども会議も活発に行われており、小学三年生から高校生までで構成されておりました。その中学生の意見から、「ふれあいの杜こども館」が作られました。又、あいぽーと前の公園に巨大滑り台がありましたが、これもこどもたちの意見から作られたとの事でした。

《こども未来館あいぽーと》

○開館日は毎月第3日曜日及び年末年始（12/29～1/3）を除く毎日と、開館時間は平日10時～20時、土日祝が9時～18時までと子どもの居場所づくりを基本とした運営でありますのでニーズに合った運営でありました。

○ちょうど学校終わりからの時間に受け入れて頂きましたが、高校生までの全世代が来ており、中には高校生たちが卓球をしていて、そこに小学生たちが紛れ込み、一緒になって遊びだしました。普段から仲良しらしく、世代を超えての交流になっている素晴らしい流れとなっております。

○NPO 法人の理事長さんにご案内頂き懇談させて頂きましたが、まさに全世代と一緒に遊ぶことの大切さを語られておりました。例えば、ボールを投げる遊びを一緒にしていると、強く投げる弱く投げるが分からない世代が分かる世代と遊ぶことによって学習をすることができる、時間いっぱい全力で遊んでほしいと語られていたことが印象的でした。





《所感》

この度はこどもの居場所づくりのヒントをたくさん頂いた視察とさせて頂きました。先の理事長さんのお話しには続きがあって、今のこどもたちは様々な情報はたくさん持っているけれど、何遊びをしたら良いかわからない、故に異世代と全力で遊ぶ事が大事ともお話しされておりました。

不登校特例校の視察の時も中学校のクラスを縦割りにする事がありました。ここに共通点があり、間違いない事だと認識をしました。

本市におきましてもこども施策に反映できるようしっかりと提案をさせていただきます。

資料名（会派保管）	「行政視察資料 こども未来館（あいぽーと）について」 「こども未来館あいぽーとにあそびにおいて資料」 「議会要覧」「市勢要覧」「いしかり市議会だより」
-----------	---

会派内回覧								
-------	---	---	---	---	--	--	--	--